

5月の和名「皐月(さつき)」は、皐月は、田植えや耕作を意味する古語「さ」から、耕作の月として「さつき」になったということで早苗を田に植え替える月です。立夏を迎える季節でもあり、光がだんだんと強くなっていく様子を表わしています。

私どもも、ご入居の方々に充足を覚えていただけるよう「介護」の苗を植え、草むしりや虫退治の様に下支えの取り組みに励んでまいります。

喜楽会

あじさい

— 家族の絆 —

5月号 No. 069

〈発行日〉 2018年5月1日

〈発行所〉 よもぎの里 愛の丘

〈編集者〉 広報委員会



4月の活動紹介

サツキ

誕生会 (葉月編)



それぞれのユニットでは、その月にお生まれになった方々の誕生会を開いてご長寿をお祝いしています。

(今回は葉月)

ひたすら食べます

初めてのデザート・バイキング

4月13日(金)のおやつタイムに、友愛ホールでスイーツ食べ放題の「第一回 デザート・バイキング」を開催しました。

皆さん甘いものが好きで、あっという間に用意した品々は全て胃袋の中へ。皆さんとてもご満悦。



甘いものはいいね



和歌声一座がやってきました

4月21日(土)の午後、歌や踊り、演劇を大いに楽しみました。

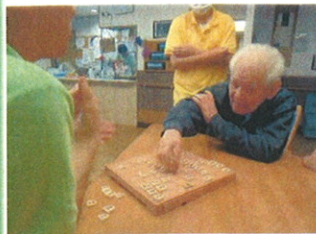


ユニット独自の催し

如月と弥生は「お好み焼き」と「たこ焼き」を。



羽生か 藤井か ヒフミンか



将棋好きのご利用者が職員相手に対局しました。職員はタジタジです。どなたか、お相手して下さいませんか？

大勢のカラオケ自慢が



十八番を披露

唄う事は口腔ケアになります。毎月一度開催します。どうぞ歌いに来てください。

●高齢化が進み「認知症」という言葉が様々に飛び交う世の中になりました。

「十人十色」

認知症は特別なものなのでしょうか？

生きていれば必ず老いが来ます。出来ていたことが少しずつ出来なくなってきましたよね。でも、その方自身が別人になったわけではないんです。今まで生きてきた中で生活環境が変わったり、病気になったりして、症状が表面化してくるだけなのです。

その方本来は何も変わってはいないのです。

認知症の人を特別だと思うのはどうしてなのでしょう？

人は初めて誰かと会う時はすぐ相手のことを知ろうといろいろ調べますよね。その方が認知症である事がわかった途端に、認知症だけが前面に見えているからなのではないのでしょうか。

その方本来の人間性を見てあげてください。

●「認知症」という壁を取り払って、その方の今まで生きてきた自伝を聞いてあげて下さい。 普段の表情に見られなかったその方本来の笑顔が見られるはずです。

● その方の生きてきた時代の流れを感じ取ってあげて下さい。そこには、私達が今まで感じたことのない感動が見えてきます。

認知症の方とどう向き合って寄り添うかを考え受け入れてみませんか？

時々この方は本当に認知症なのかな？と思うことはありませんか？

認知症の症状は様々です。つまり十人十色なんです。

だから答えも十人十色、毎日の生活の中で環境も身体状況も違っています。

細かく見れば課題は永遠なのです。

少しでも答えを見つけたいのなら寄り添い、声掛けをし、傾聴し、沢山スキンシップをすること。 それって、認知症でなくても嬉しくなりますよね。 しかも信頼関係が築けるんです。

認知症の症状のために、言葉が上手く表現できなかったり、短期記憶が保てなくなったり。

だからこそ、身体や表情で表現することも言葉の一つなんです。

介護の世界では一人一人が表現者です。

そして一人一人がそれぞれのその方本来の個性をみつけていけたらいいと思います。

十人十色だからこそ、介護職は相手に写る自分を見つめ直す仕事でもありますよね。

ユニット 長月リーダー 坂口 時子

職員の研修も怠りません

誰がお世話してもご利用者の安全安心の介護が出来るように、月に2～3回の割で研修会を行い職員の資質向上に取り組んでいます。



5月行事のお知らせ

5月 8日(日) 書道クラブ

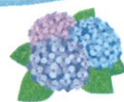
5月 9日(火) あんずの会

5月13日(日) カラオケクラブ

5月30日(水) モズコンサート

各ユニットでは、お誕生会をはじめとして趣向を凝らしたユニット独自の工夫をこらし、よもぎの里愛の丘で暮らす皆様に楽しく過ごしていただく用意をしています。

広報委員会



平成30年5月号担当
吉川施設長
坂口・堀内

お問い合わせ

042-778-7211